四万十ヒノキ シンボルマーク

ヒノキの大木と、堂々と山で働く林業家の信念を
重ねたシンボルマーク。
山と生きてきたプライドと
次の100年を見据えた林業の未来を示しています。

四万十ヒノキブランド化推進協議会

【構成】

四万十市・四万十町・中土佐町・三原村・中村市森林組合・西土佐村森林組合
四万十町森林組合・須崎地区森林組合・三原村森林組合・高知県森林組合連合会

【市町村問い合わせ先】

◎四万十市	農林水産課	四万十市中村大橋通４丁目10番地	0880-34-1118
◎四万十町	農林水産課	高岡郡四万十町琴平町16-17	0880-22-3113
◎中土佐町	農林水産課	高岡郡中土佐町久礼6663-1	0889-52-2471
◎三原村	農林業建設課	幡多郡三原村来栖野346	0880-46-2111

SHIMANTO HINOKI PROJECT

四万十ヒノキ プロジェクト

四万十ヒノキ

TRADE MARK

四万十ヒノキは、
高知県西部
四万十川流域に
位置する4市町村
四万十市
四万十町
中土佐町
三原村で
育てられたヒノキです。
芯が赤く、
ツヤがあり
香りが強いのが
特徴です。

ヒノキの代表産地を目指して

SHIMANTO HINOKI PROJECT

森を守り、森を育てる。

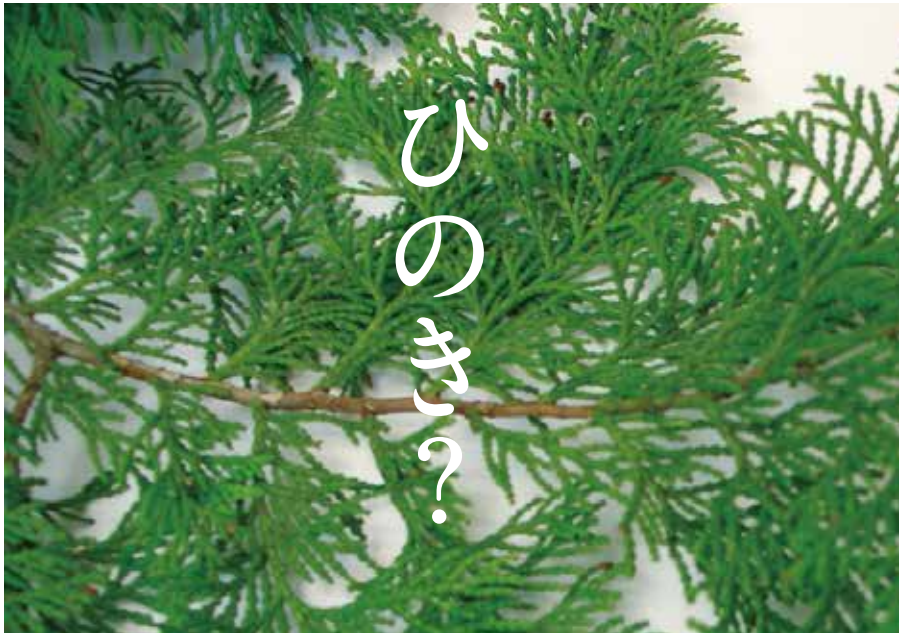
高知県のヒノキは、面積、蓄積とも全国一。特に四万十川流域を含む県西部地域に豊富に存在しています。四万十川流域に位置する四万十市、四万十町、中土佐町、三原村の４市町村では、このヒノキを「四万十ヒノキ」と呼んでいます。４市町村の総面積は155,315haです。そのうち森林面積は134,289haで、総面積の86％を占めています。

芳醇香と美桃肌の四万十ヒノキ。

日本文化の象徴たるヒノキ。用途は、生活のあらゆる場面におよびます。ヒノキは豊かな香りとともに、文化の息吹を今に伝えます。高知県四万十川流域は、そうしたヒノキの中でも、特に優良なものを生み出す産地として古くから知られています。ほんのり桃色で、耐水性良し、加工性良し、使い勝手良しと３拍子そろった特徴を備えています。

四万十ヒノキは、日本の森をつないでいきます。

日本は木をあつかう文化の国です。現代に生きる我々は、この国に息づいてきた文化を、時代に合う形に進化させ、次世代につないでいくだけの工夫が必要です。その思いを形にするために「四万十ヒノキ」を生産する私たち、四万十市、四万十町、中土佐町、三原村は、ヒノキの新たな未来を拓くための体制を構築しています。



ひのき

ヒノキ・檜・桧

ヒノキ科ヒノキ属

Chamaecyparis obtusa

葉裏のY型の白い線(気孔線)がヒノキの特徴

球果はまさに球形で1cmほど
１０～１１月に熟す

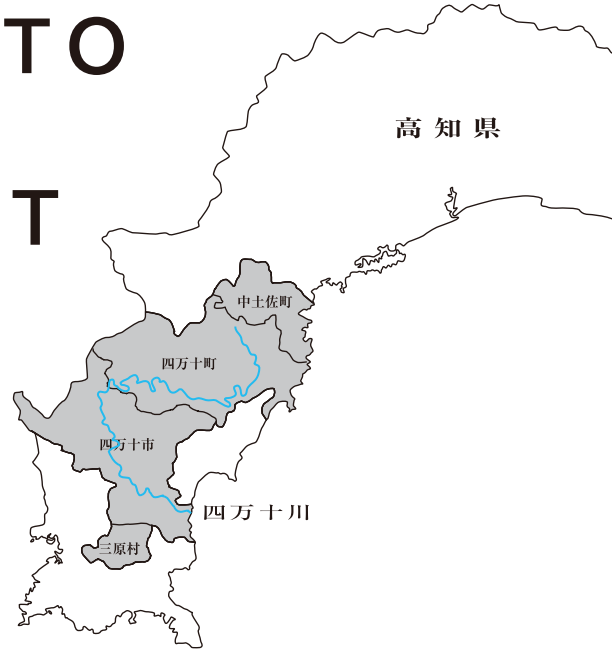
福島県東南以南の本州、四国、九州に分布する針葉樹。大きいものは30mを超えることが知られています。日本書紀には「スギとクスノキは舟に、ヒノキは宮殿に、マキは棺に使いなさい」と書かれています。ヒノキは古くから寺院・神社の建築用として最適で最高の材となることが当時から知られていたのです。

「ひのき」という名の由来は「火の木」の意味で、古来に火おこしに使われたという説と、尊く最高のものを表す「日」をとって「日の木」という説もあります。ヒノキは日本と台湾にのみ分布します。台湾本島には変種タイワンヒノキ(台湾扁柏、Chamaecyparis obtusa var. formosana)が分布しています。日本では木曾に樹齢450年のものが生息しているのが最高ですが、台湾では樹齢2,000年のものが生息しています。

ヒノキは、日本では建材として最高品質のものとされ、加工が容易な上に緻密で狂いがなく、日本人好みの強い芳香を長期にわたって発します。正しく使われたヒノキの建築には1,000年を超える寿命を保つものがあります。伐採してから200年間は強くなり、その後1,000年かけて序々に弱くなります。実際にヒノキで建てられた法隆寺や薬師寺は1,400年経った今も維持されています。ヒノキは木材として耐久性も保存性も世界の建材の中でもトップクラスの品質です。

SHIMANTO HINOKI PROJECT

四万十川



目次

四万十ヒノキについて ―― p3
四万十ヒノキを育てる人 ―― p7
四万十ヒノキを商品にする人 ―― p11
四万十ヒノキで家を建てた人 ―― p15
四万十ヒノキ資料編 ―― p19
四万十ヒノキ取扱い業者一覧 ―― p23

「四万十ヒノキ」プロジェクトのはじまりと現在 地

宮本昌博さん
中村市森林組合 / 代表理事組合長

もともと製材所たちが「幡多ヒノキ」と名付け、売りはじめていた。

宿毛市にある製品市場「西部木材センター」は、製材所が製材した柱などを持ってきて出荷すると、全国の木材問屋が買いに来る所です。そこで製材所たちが「幡多ヒノキ」と名付け、歌も作って全国を売り歩いたりしていたのですが、私が関わり始めた15年ほど前から問題が出始めていました。

国有林から出る天然木が銘木「幡多ヒノキ」。

「幡多ヒノキ」は元々、国有林から出る、径の大きな木のことを指していました。60年～70年生やもっと古いものもありましたが、それは天然林でした。いわゆる「銘木」中心の売り方をしていたのですが、それも枯渇して戦後植えた人工林が間伐材でどんどん出てくるようになりましたが、それではなかなか他産地との差別化ができなくなっていました。

幡多地域以外の木が混ざるようになってきた。

そして一番の問題は、製材屋さんは安ければどこからでも原木を買って来る。よそから木を買ってきて、この周辺で製材して、宿毛市の西部木材センターへ出荷する。そしてそれを「幡多ヒノキ」という名前で売ってしまうと、おかしいじゃないか、という意見が出たんです。

「四万十ヒノキ」の誕生

差別化をするのであれば、原木生産がどこでなされたのかというのを重視すべきではないかと。そこで当時、研究会ができて様々な人から意見をもらう中で、これはもう「幡多ヒノキ」とは異なる名称でやるしかないと。

調べると、全国のヒノキの蓄積量は高知県が全国一位で、高知県の中でも一番が四万十市で二番が四万十町だったんです。つまり四万十川流域はヒノキが大量にある地域だと。

四万十市からの声掛けで四万十川流域でとれるヒノキを「四万十ヒノキ」として共に売り出していく活動をしませんかと四万十町に話を持っていくと、ぜひやりたいと。

総ヒノキづくりの中学校建設。

その当時、中土佐町の久礼中学校構想というのがあり、話を聞きに行くととても大きな計画で、ヒノキの２階まで続くような通し柱を8寸角で530本使って建

てると。そんなすごい建物のヒノキを集める仕事を須崎地区森林組合が受けたんですが、中土佐町にも声をかけたら、ぜひやりたいと。

またその頃、いろんな所へ行くと「三原の木はみんな素性がええ」という話をたくさん聞いたんですね。どこが良いかって言うと、とにかく丸いと。円に近いと製材屋がとても喜ぶんです。柱を取る場合は不要な部分が少なくて済むからありがたい。

三原村の森林組合へ行って当時の組合長と話をすると、ぜひヒノキの仲間に入れてほしいと。三原村に四万十川の水が流れよるか、と聞くと、多少流れよる(笑)と。とりあえず４カ所でいくかという話になりました。

「四万十ヒノキ」はまだない。

「幡多ヒノキ」は製材所が名乗っていたので生産基準はありませんでしたが、これからはどういう育て方をすれば「四万十ヒノキ」と呼ぶに値する木になるのか、というのを原木生産から考えなければならないのではないでしょうか。

今、ブランド化協議会の中では「8020(ハチマルニイマル)ヒノキ」といった80年で直径が20センチを目指していきましょうという大きな指針はありますが、現在の問題点としては仕立て方、つまりはどういう育て方をすれば80年生の良いヒノキができるのかというのが技術的にまだ確立されていないんです。

40年間どのように育てたら良質になり、それがまた更に40年経ったらどうなるのかを研究している途上なんです。その解明をみんなでやった産地が、最後はヒノキの名産地として残るんじゃないかと思うんです。

まだ始まって20年に満たないプロジェクトですし、８０年経たないと製品にはならない。これは非常に長期的な取り組みです。どういう努力をして20年後、30年後に市場に出して見てパッとわかるような、特徴的なものに育てられるかどうかが問われているんじゃないでしょうか。

つまり現時点では、僕たちが望んでいる「四万十ヒノキ」はまだないんです。ここが堪えどころ、何十年もかけて木を育てるというのは、そういうことだと思うんです。

「ヒノキ」の代表産地になるために。

安いものが大量にほしい、というお客さんもいますが、単なる原木供給基地におさまってしまうのはもったいない。良質のヒノキがあり、さらに加工も含めてこの地域でやっていく。そして建築文化も大切だと考えます。久礼中学校ほどの規模は難しいかもしれませんが、ヒノキを生かすというのを言葉だけではなく、文化的な価値も含め実際に体現しなくては代表産地とは言えないのではないでしょうか。

四万十ヒノキをふんだんに使用して建てられた久礼中学校（中土佐町）

【四万十ヒノキのあゆみ】

2009（平成21年）
幡多ヒノキと区別し、産地に着目したヒノキを目指して「四万十ヒノキ」構想スタート
2011（平成23年2月28日）
四万十市、四万十町、中土佐町、三原村で「四万十ヒノキのブランド化に向けた４市町村協定書」を締結（協定期間：10年間）
2011（平成23年度）
「四万十ヒノキブランド化推進協議会」を設立
2021（令和3年4月1日）
「四万十ヒノキのブランド化に向けた４市町村協定書」の更新（協定期間：10年間）

切って再造林までがセット という考え方で 山の循環を生み出したい。

【四万十ヒノキを育てる人】三原村
野町 高志さん・東 裕也さん　三原村森林組合
宮﨑 禎人 さん　三原村農林業建設課

—造林・増産はどんな仕事か教えていただけますか。

野町：造林は、地ごしらえから植え付けまで。下刈りや切り捨て間伐、保育間伐を行います。将来性のない木は間引いて、将来性のある木を太らせていきます。

東：増産ですが、一気に切るのは皆伐といって一帯の木を全て切ってまた新しく植えます。間伐は一帯から３割ぐらい切って残ったものを材として出しつつ、山に残った木は太らせていくやり方です。

—林業の現状をどう感じていますか。

野町：今は増産、増産でどんどん山を切って、その山が放置される傾向にあります。今までヒノキの山だったところが放置されると草とか雑木林になるという状況です。お金がかかるので山主さんが、新しく木を植える体力がなく、今は山を放棄する人も増えていますが、ヒノキを守っていくためにも再造林に力を入れたいですね。

—現場に従事されている方の平均年齢はどれぐらいでしょうか。

野町：平均41歳です。年長者で46歳、全員で7人です。

—IターンやUターンで来られる方もいますか？

東：いましたが、なかなか続かない。理想と現実は違いますからね。

野町：後継者を増やすことができれば木を出すこともできるし、造林もできる。まずは山に入ってきてもらわないといけない。造林は鍬を持って山に入るような地味な仕事なので、若い子は嫌がります。

東：機械仕事は経験すれば身につくと思いますが、いろんな仕事があるので、これはいいけどあれは嫌、と選り好みをしていたのでは続きません。

—「四万十ヒノキ」の認知は進んでいると思いますか？また現場での問題点や困りごとはありますか

宮﨑：認知はまだ進んでおらず、ブランド化を推進させるために木を育てるところからやってみようと四万十市から協議会で提案があり、さらに良質なヒノキの育成を目指し、三原村でも取り組もうとしているところです。モデル林ができれば、地域特有のブランド化を進めることもできるんじゃ

ないかと。また、そこを教育の場にするイメージもできます。地元の人が林業に関わるきっかけとして、子どもたちに山に入ってもらうのがいいなと思うんです。三原村は少数精鋭でやっていますので小回りがきく良さがあると思います。

—他地域との比較は難しいかもしれませんが、三原村のヒノキはいいぞ！というのは伝わっているんでしょうか。

野町：それは聞いていますね。高知県でもトップの品質。香りも違うし、すごいえい材じゃないかなと。しかし山ごとでヒノキの芯の色味は違うし、日当たりや向き、地質でも変わってくるんですよ。赤っぽいのもピンクもあるし、海辺の方へ行くと白っぽかったり、黄色っぽかったり。

—どこのエリアでも自信をもってやっているけど、「四万十ヒノキ」の基準が分からない‥‥

野町：「四万十ヒノキ」と名が付いたから高値で売れたという実感はまだないですね。

—どうしたらいいと思いますか。

宮崎：一般的なヒノキと「四万十ヒノキ」を分けて受け入れる市場や協議会の中で「四万十ヒノキ」のストックヤード的なものがあれば流通の形から変わるんじゃないかと。そして三原村のヒノキを次世代に守っていくためにも「四万十ヒノキ」が有名になると、所有者の意識が変わってくると思うんです。切って再造林までがセットという考えが定着してくれると山の循環ができていいですよね。

いいヒノキは中心の年輪の芯が詰まっている。

【四万十ヒノキを商品にする人】中土佐町大野見
熊岡 常盛さん　熊岡製材所　中土佐町大野見

—熊岡さんが製材を始めたのはいつ頃ですか。

ここは1953年に親父が始めて70年目。自分は二代目で20歳ごろから始めたのよ。昔は山に丸ノコ持って行って木を引いて、エンジンのもんがないから製品をキンマに積んでね。大野見には２軒ほど製材所があったけど、中土佐でも今はうちだけよ。

—「四万十ヒノキ」という意識で材を売っていますか。

ここいらは四万十川の源流域やけんね、四万十という名前はよく知られとる。東京の方では評判はええで。高知市内の市場でも「大野見産のヒノキ」いうてちゃんと売ってくれる。色艶がいいいうて、目も若干違うと思う。自分らが「四万十ヒノキ」として出したのは、東京のアロマ製品を開発する会社で、木製のアロマディフューザー用やね。

—「四万十ヒノキ」の目指すところで「8020（ハチマルニマル）※」というのがあります。

それはだいぶ目が込んじょるね。年輪の感覚が狭いということは強度があるという意味でもある。そして見た目にも綺麗。

—いいヒノキだと見極めるのはどういったポイントですか。

中心の年輪の太さよ。芯が詰まっている。天然木か植林された木かどうか違いはわかる。あとは節がない、曲がりや反りがない。

—ヒノキは文化的な建物にも多く使われていますね。

建ったら何百年ものじゃけんね。しかし山からとってきた木も乾かすのに何年もかかるし、寺を建てるのにも時間がかかる。自然乾燥だと2～３年は置きたいところよ。太い木があまりないから、山に行って欲しい木に印つけ

※80年で直径20cmの目の詰まったヒノキを育てる「四万十ヒノキ」の取り組み

て、あの木・この木いうて切るんよ。結局、出すにのにも時間がかかる。ひと山ゴッポリこうたら順番に切り出しできるけど、抜き取りやから、時間かかるし木を出すために余分な木も買わないかん。

—昔から寺社仏閣や公共建築用材は多かったんですか。

そうやね、お寺さんもあるし久礼中学校のも全部引いたけど、あそこは２年半ばかかったけんね。ヒノキはこまい４トン車で25万ばしよるけど、昔はかるく100万はしよった。それやったら山やってもかまんけど、今は値段が安い。女房と二人やし、丸太を引ける人がおらん。機械に据えて、どう引いてええか知っちゅう人がおらんけん、だれっちゃ頼めない。自分はこまい時から親父のこと見ちゅうし、自分が大工やってた頃から自分で引きよったからわかる。大抵、８回は引かないかん。４回引いたら角なるけどそれでも曲がるけんね。それをまた調整して寸法合わせる。無駄が出たらいかんから、縁でまな板とったりいろいろよ。何回もやらんと身に付かんし、何回もやっても、おんなじ木は1本としてないけん。自分らはやれるだけやるけども、後継者もおらんし、若いもんに魅力的な仕事やと思ってもらえるかどうかやね。

ヒノキの家は
呼吸していることを
感じられます。

【四万十ヒノキで家を建てた人】四万十町
林 千紘さん・寿美莉さん・穂月ちゃん

—家を建てる計画はいつ頃から始められましたか？

千紘：2021年の５月ごろに土地を購入したのですが、どのハウスメーカーや工務店で建てるかをさまざま検討し、高知市内の住宅展示場なども見に行ったのですが、結局、町内の工務店にお願いすることにしました。

—決め手はなんだったんですか。

千紘：兄も同じ工務店で家を建てたというのもあり、名大工だという話も聞いていたのでお願いしました。兄は土佐市の方で今から15~20年前ぐらいに建てました。この大工さんは伝統を守る工法で住宅を手がける木のプロフェッショナルですから、杉やヒノキの使い分けはお任せして町産材で建ててもらうことにしました。

—昔からの大工さんは適材適所で材を使い分けてくれますもんね。

千紘：柱も床もヒノキです。杉は天井の方でしょうか。お願いしてから１年半ぐらい待ちました。

—家を建てる際の職人さんとのやり取りはどうでしたか？

千紘：気さくで話しやすかったです。最初は建てたい家を図面で描いてこいって言われて。2階は構造上、制限があるのでアドバイスをもらいましたが、吹抜けがほしいとか、ガレージがほしいとか、薪ストーブがいいとか、要望を聞いてもらって。

寿美莉：想像以上に、私たちが思い描くようにやってくれました。

—木でよかったなと思うところはどんなところでしょうか。

千紘：木に囲まれていると落ち着くし、温かみがあるところでしょうか。時間が経つと色が変わってきたりしてそれも愛おしいです。2022年の11月に建てたのですが、1年半でもだいぶ変わってきたと感じます。

寿美莉：お客さんが来たら、今でも木のいい香りがするねって言ってくれます。私たちはだいぶ慣れてきちゃったんですが。

千紘：あと、町産材で建てると条件によって町から補助金が最高150万もらえますし、それは本当に助かりました。

—暮らしてみていかがですか。ヒノキは硬いようで柔らかいところもあるじゃないですか。

千紘：そうなんです。無垢でやったんで、子どもが小さいのでどうしてもおもちゃを床に落としたり傷が入ってしまうこともありますが、いちいち気にする事をやめました。それも味わいだなと（笑）。暑さ、寒さもそこまで気にならないですし、冬場は朝でも10度を下回ることはほとんどないです。木の家は呼吸している。それも感じられます。

寿美莉：食器棚とか洗面台なども木で造作してくれたので、家具はほとんど買ってないんです。使い勝手の良さや木の温もりもそうですし、自分たちの家にぴったりのものを妥協なく提案してくれて感激しました。

◎四万十ヒノキ

四万十川流域を含む高知県西部地域に豊富に存在するヒノキです。四万十市・四万十町・中土佐町・三原村の4市町村では、このヒノキを「四万十ヒノキ」と呼んでいます。

◎豊富な森林資源を有する高知県

高知県は、県土の84%を林野が占める全国屈指の森林県です。森林面積のうちヒノキ林は面積が165,996ha、蓄積量が63,033千m3です。

◎将来屈指のヒノキ一大産地

四万十市・四万十町・中土佐町・三原村は、高知県西部の四万十川流域に位置し、4市町村の総面積は155,315haです。そのうち、森林面積は134,289ha（民有林、国有林）で、総面積の86%を占めています。

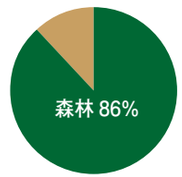
森林面積のうちヒノキ林は50,135haです。これは、高知県内のヒノキ林面積の約30%にあたります。将来は全国でも「屈指のヒノキ一大産地」となる時代がそこまで来ています。

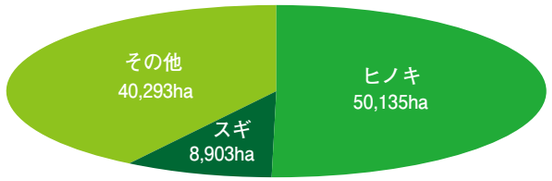
市町村別森林面積

	総面積(ha)	森林面積(ha)	民有林面積(ha) ヒノキ	スギ	その他	計
四万十市	63,229	53,421	19,802	4,382	17,649	41,833
四万十町	64,228	56,103	19,997	3,271	16,359	39,627
中土佐町	19,321	17,295	7,808	904	4,817	13,529
三 原 村	8,537	7,470	2,528	346	1,468	4,342
計	155,315	134,289	50,135	8,903	40,293	99,331

出展：高知県HP　統計データ「令和4年度 高知県の森林・林業・木材産業

4市町村の総面積における森林の割合

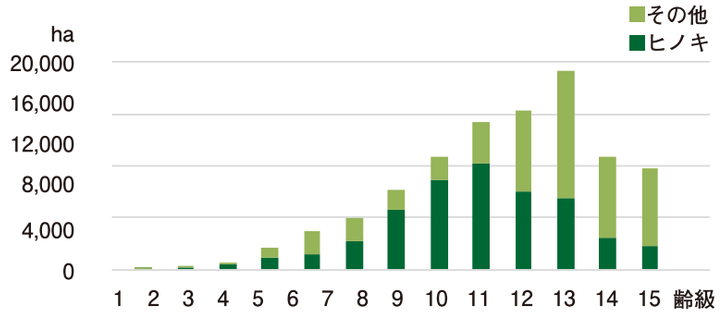




4市町村の森林の内訳
その他はマツ、ナラ、クヌギ、カシ、シイなど

◎成長するヒノキ林

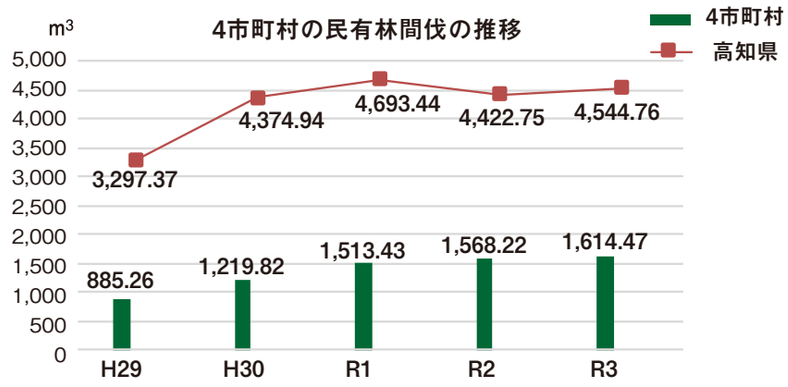
４市町村の民有林ヒノキは、林齢でみると41年生から60年生までの割合が多く面積では６割以上を占めています。



SHIMANTO HINOKI DATA

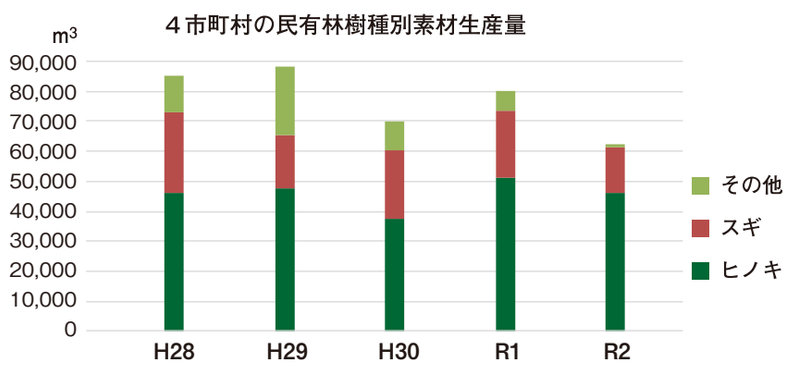
◎ヒノキを育てる

ヒノキの植栽は、1haあたり約3,000本です。その後、5～7年程度下草刈りを行い、つる切りや除伐を進めます。20年生くらいから10年生程度の間隔で間伐作業を行い、形状の良い良質材を育てていきます。間伐は保育間伐（切捨間伐）と材を販売する収入間伐（搬出間伐）とに分かれます。現在では、主伐時期を80年生以降とする方法がとられています。



◎素材生産量の7割がヒノキ

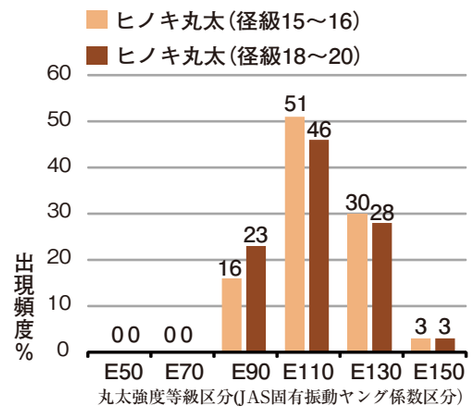
４市町村の民有林の素材生産量は、令和２年度で62,522m3です。そのうちヒノキの生産量は46,344m3となっています。



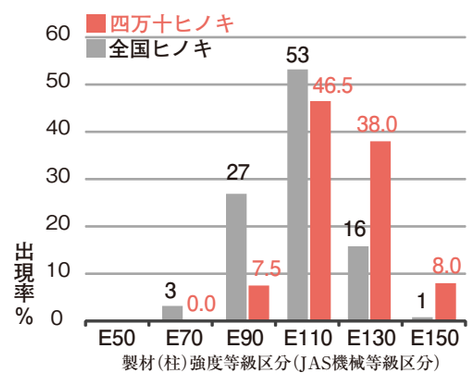
四万十ヒノキ柱の強度性能試験

【目的】四万十ヒノキによる柱の強度性能を把握するためにJAS規格に基づき強度試験を行いました。
【期間】平成29年～令和元年
【場所】四万十町森林組合北ノ川山元貯木場、高知県立森林技術センター
【試験材（丸太）】◎四万十市有林材（板ノ川52年生）径級16（50本）径級20（50本）◎四万十町有林材（キビジリ40年生）径級16（50本）径級20（50本）
【試験材（製材）】105㎜×105㎜×3m（100本）/120㎜×120㎜×3m（100本）

四万十ヒノキ丸太の強度性能試験



四万十ヒノキ柱の強度性能試験



■ 基本統計量（四万十ヒノキ）

データ数	200本
平均値	11.7kN/㎟
変動係数	11.0%
5%下限値	9.5kN/㎟

資料：高知県立森林技術センター（2019）

■ 基本統計量（全国ヒノキ）

データ数	899本
平均値	10.5kN/㎟
変動係数	13.3%
5%下限値	8.1kN/㎟

資料：木構造振興株式会社（2011）

四万十ヒノキ取扱い業者一覧

※四万十市、四万十町、中土佐町、三原村の管内に所在する事業者のみを掲載しています（県森連を除く）。

令和6年4月1日現在

【製材所・共販所】

◎四万十市

岡村木材	四万十市具同7361-16	0880-37-5380
上村製材所	四万十市西土佐江川崎1243-1	0880-52-1187
佐竹木材有限会社	四万十市蕨岡乙2080番地1	0880-32-1100
昭和木材株式会社	四万十市西土佐茅生287番地	0880-54-1603
株式会社森岡木材	四万十市岩田249番地1	0880-35-3360
山崎製材	四万十市山路1965-8	0880-36-2306

◎四万十町

協同組合高幡木材センター	高岡郡四万十町東大奈路505	0880-22-1241
中越製材所	高岡郡四万十町下呉地281-3	0880-22-8221
共栄木材有限会社	高岡郡四万十町希ノ川53	0880-27-0008
三林製材所	高岡郡四万十町大正1316-32	0880-27-0085
有限会社芝製材所	高岡郡四万十町古城714-2	0880-28-5107
竹内製材	高岡郡四万十町戸川179	0880-28-5074

◎中土佐町

熊岡製材所	高岡郡中土佐町大野見寺野58	0889-57-2260

◎三原村

武内製材所	幡多郡三原村下長谷606-7	090-2783-8422

◎県森連

高知県森林組合連合会 高幡共販所	高岡郡四万十町替坂本5	0880-22-8190
高知県森林組合連合会 幡多共販所	宿毛市山奈町山田5447	0880-66-2211

【四万十ヒノキを使った商品の開発・製作・販売】

◎四万十町

合同会社OUCHI企画	高岡郡四万十町広瀬211	090-2378-5466

【四万十ヒノキの建物に宿泊体験】

◎四万十市

"宿泊体験型モデルハウス
四万十ヒノキの家（指定管理者：株式会社かわらっこ）"

四万十市田出ノ川８番地２　0880-31-8400